

萬國通私法卷上

3495



114  
A2734  
1



萬國通私法卷上

小引

大正十一年四月  
隈侯爵印

凡ソ萬國通私法ノ本旨ハ内外人民ノ別ヲ立テ  
ス雙方負フ所ノ義務ヲ完成セシムルニ在リ夫  
義務ハ必ス其負フ所ノ人ニ影從ス若シ之ヲ完  
成セサレハ到處之ヲ強ユ而ノ能ク人ニ義務ヲ  
完成セシムルハ同情ノ訟ヲ聽クニ必ス常ニ均  
一ノ審斷ヲ為スニアリ若シ日本審廳ニ於テモ  
能ク此理ヲ解シ萬國通私法ノ意ヲ執行セハ文  
明開化ノ各國ト同等ノ交義ヲ持スルヲ敢テ俟  
ツ可シ蓋シ義務ノ語ナル況ク之ヲ解スレハ人

義  
省

ノ必スレモ為ス當キノ務ヲイフ民ノ其邦國ヲ  
 守ル其政府ノ命令ヲ奉スル即其民ノ義務タリ  
 政府ノ境内ノ民ヲ保護スル其訟ヲ治ムル公平  
 ナル即其政府ノ義務タルカ如シ而シテ萬國通私  
 法ノ所謂義務トハ専ラ人民互相ノ約束ヨリ出  
 ル所ノ義務ナリ今我某人ノ為ニ某事ヲ為スヲ  
 約スルトキハ我其人ニ之ヲ為スヘキノ義務ヲ  
 負ヒ某人我勞ニ報ヒント約スルトキハ某人亦  
 我ニ報酬スヘキノ義務ヲ負ヒ我人ニ物ヲ貸セ  
 ハ其人ニ之ヲ我ニ還スノ義務ヲ負フト做スカ如

シ是等即此編ニ論スル所ノ義務ナリ而シテ義務  
 ニ離ルヘカラサルノ事三アリ

- 其一 故因 是雙方約束ヲ結フノ原始ナリ  
 假令ハ我人ニ我カ為ニ某事ヲ就サハ  
 報ルニ某物ヲ以テセント約スルキハ  
 我此祭約ト彼ノ報酬ヲ要スルト即某  
 事ヲ始ムルノ故因タルカ如シ
- 其二 關約ノ夥人 是約束ヲ結ヘル雙夥ヲ  
 指ス
- 其三 目的 是素故因アリテ起ル者タリ

凡ソ百般ノ義務之ヲ完成セントスル所ノ地法  
 ニ合セスニハフランス若シ之ニ違ヘハ審廳其訟  
 ヲ問治セス故ニ紐育ノ人日本ニ於テ阿片ヲ交  
 付スヘキノ約ヲ為ストキハ此約法ニ合フトセ  
 ス何トナレハ其約束日本ノ法ニ於テ禁スル所  
 ノ事ヲ目的トスレハナリ是ヲ以テ若シ此紐育  
 ノ人阿片ヲ交付スルノ約ニ背キ紐育ニ於テ控  
 告セテルモ日本審廳之ヲ採治スヘカラサル  
 ヲ以テ紐育ノ審廳モ亦之ヲ校問スヘカラス然  
 ルニ若シ此約束紐育ニ於テ欠者ニ勒行セシム

ルヲ得日本ニ於テ勒行セシムルヲ得ストセハ  
 是同一ノ訟ヲ治ルニ殊異ノ審斷ヲ以テスルナ  
 リ  
 約束モ亦之ニ入ルノ兩夥各其本貫ノ法ニ於テ  
 約ヲ結フノ能力ヲ有スル人ナラスニハアラス  
 故ニ假令ハ一夥狂人タルカ或ハ尚弱ニシテ其  
 能力ヲ有セサレハ約ニ入ルヲ得ス而シテ此規則  
 ヲ立ルモノハ人其本貫ノ法ニ於テ己ニ能力ヲ  
 有スル者タレハ行ク處トシテ其能力ヲ有セサ  
 ルナク若シ能力ヲ有セサル者タレハ到處約ニ

入ルヲ得スト做セハナリ何ヲ以テ之ヲ謂フ蓋  
約束ヲ結フノ人其成ニ背クハ其財産ヲ以テ  
之ヲ償ハシムルヲ通法トス然ルニ若シ其背成  
ノ訟他邦ニ於テ起リ其審廳之ヲ斷シテ欠者ノ  
財産ヲ賣リテ債主ニ欠項ヲ償フヘシトスル  
アルニ方リ其財産ノ所在通例欠者本貫ノ地ニ  
在リト認ルヲ以テ此時欠者若シ約束ニ入ルノ  
能力ニ有スル者タラサレハ本貫ノ審廳之ヲ認  
メテ違式ノ負債ト為シ欠者ノ財産ヲ賣リテ債  
主ノ意ニ滿ルヲ許サ、ルヲアルヘシ此ノ如キ

ハ各國殊異ノ審判ヲ為ス至ル是此規則ノ設  
クル所以ナリ  
凡ソ人ノ權ヲ受ルノ能力モ亦其本貫ノ法之ヲ  
管理ス故ニ今若シ日本ニ本貫ヲ有スルノ人外  
國ニ其財産ヲ散有スルトキハ死後之ヲ承受ス  
ルノ人ヲ定メ其分配ノ事ヲ限ルモ亦此ニ擬ル  
ヲ通規トス若シ他則ヲ用フルキハ其財産所在  
ノ國毎ニ殊異ノ審判ヲ為サ、ルヲ得ス  
右掲載スル所ノ例ヲ以テ人將ニ此萬國通法ノ  
本旨ハ凡世普通ノ規則ヲ設ケ義務ヲ勒行セシ

人権ヲ保存スルニ在リ又其學タル百般ノ商  
事各種ノ人権ヲ職トシテ講明スルニ在ルヲ知  
ルヘシ尚且此法タル百法中ノ至善至公ナルモ  
ト云フヘシ何トナレハ其多々無數ノ規則皆  
個ノ正義公道ニ源セサルナク帰向スル所萬國  
百姓ノ為ニ信義ヲ勅禁スルノ外他ナケレハナ  
リ抑凡世洽及ノ則ナクニハ茲ニ萬國ノ通法勿  
ルヘシ而其規矩素唯假設臆想ニ出テ正義公  
道ニ根セスニハ凡世ノ民之ヲ通用スルニ至ラ  
サルヘシ

蓋シ此通私法中ノ最要緊ノ為ス所ノ者ハ一國  
ニ於テ約束ヲ為シ他國ニ於テ其完成ヲ期スル  
者アリハ之ヲシテ其権理義務ヲ校問スル必ス  
其完成ヲ期スル所ノ地法ニ甘服セシムルニ在  
リ故ニ人一日モ他國ノ境ニ入ル必ス其禁ヲ問  
ヒ其令ヲ奉セサルヘカラス  
今夫日本ノ人他邦ノ領事等ニ兩民ノ争訟ヲ審  
判スルノ権ヲ委スルハ自其政府ヲ卑辱スルナ  
リ此ノ如キ他邦ノ民皆聽シテ言ニ凡ソ日本國  
中一モ正義公道ノ理ヲ解スル人ナレ故ニ外民

ノ権理ヲ保護スルニ適セスト是自然ノ勢ナリ  
抑歐米文明ノ各國ニ於テハ嘗テ他邦ノ領事ヲ  
シテ沼訟ノ事ニ關ラシモノトシ唯文明半開  
ノ國阮日土巴見巴利諸國ノ三其權ヲ他邦ノ領  
事ニ委ス故ニ阮日土ノ如キ國中一個ノ襲世貴  
族ナク往昔ヨリ其民皆觀テ以テ奴隸ト做サル  
此蔑辱ヲ蒙ルノ久キ民咸ク其自ラ重ニスルノ  
志ヲ失シ歎慨ノ氣地ヲ拂テ去キ之ニ加フルニ  
汚辱ヲ以テスル百方ナルモ終ニ其怨ヲ發スル  
ヲ見ス潤深ノ弊此極ニ至ル誠ニ恐ルヘク亦憐

ムヘシ

夫萬國通私法タル其素各國同權ノ妙理ニ出ツ  
故ニ日ソ人ノ義務権理ハ最貧最弱ノ國ニ於テ  
之ヲ約シ之ヲ得ルモ尚最富最強ノ國ニ於テセ  
ルモノト一般ト為テ故ニ貧弱ノ國ニ於テ禁止  
スル所ノ條件モ亦凡世ニ對シテ之ヲ禁止スル  
ヲ得ルナリ  
又各國ノ確法即成文律トハ治者ヨリ被治者ニ布ク  
所ノ令ヲ云フ故ニ其為ス當シト令スル所ハ民  
ヲ為サハルハカラス其為ス可ラスト令スル



ハ衆之ヲ為シテ得ス而シテ他邦ノ民其境ニ入  
レハ亦之ヲ守ラサルヲ得サルナリ何ヲ以テ之  
ヲ謂フ蓋シ各國政府ノ權皆齊等一國ノ政府他  
國ノ政府ヲ越テ政上特權ヲ施為スルノ理ナキ  
カ故ニ此ニ萬國普通ノ確法ナレ若シ之ヲ要ス  
ルニ方ツテハ各國ノ政府互ニ其立ル所ニ甘服  
シ之ヲ共通流用スルニ在ルノミ但浮財寶産ノ  
別ヲ去ルニ至テハ各國稍其適遵スル所ヲ殊ニ  
スル即米英ノ兩國ニ於テ浮財ノ工ニ此通法ヲ  
應用スルニ最カヲ極ムルニ如シ

嗟呼夫日本ノ人此通法ヲ解スルニ至ラスニハ  
其國殷富強盛ノ商國ト成ル能ハス亦世上各國  
ノ間ニ立テ其本然ノ地位ヲ有ツ克ハス日本  
天皇亦外國代理者ノ阻問ヲ放除シ敬テ百綱ノ  
源百義ノ根ト仰カレテ克ハス又其審廳モ亦内  
外人民ノ義務ヲ勒行セシメ權理ヲ保存セシム  
ル克ハシ  
凡ソ萬國通法之類分レテ二トナル曰公法曰ク  
私法是ナリ其共ニ本ク所ノ理ニ曰ク凡ソ各國  
自主ノ權ヲ可ス此權ハ内外ヲ問ハス尽ク其

ニ入ル所ノ衆民ニ及スヘシト而シテ此權名ト  
テ待立主裁ノ權ト為ス特立主裁ノ權亦分レテ  
二トナル一ヲ境内自主ノ權一ヲ及外主裁ノ權  
トイフ凡國他國ノ為ニ制セラレス能ク之ト同  
等條約ヲ結フトキハ及外主裁ノ權其國ニ存  
ス國能ク其臣民ノ上ニ至大ノ權ヲ施行シ法制  
ヲ立テ審廳ヲ設クルトキハ境内自主ノ權全シ  
若シ其臣民ト其境ニ入ル所ノ民ノ為ニ法ヲ  
之ルノ權ヲ有セスニハ内ヲ守リ外ヲ防ク克ハ  
シ

蓋シ境内自主ノ權ハ心ニ外邦政府ノ之ヲ認  
ムヲ要セス故ニ日本、如キ近年其港ヲ開テ  
交テ外ニ結フノ前能ク此自主ノ權ヲ存セリ又  
高麗ノ如キ僻シテ支那東北ノ一隅ニ在リ其自  
主ノ權曾テ歐米諸國ノ認メサル所ト雖モ尚存  
ス  
及外主裁ノ權ハ國若シ通商ノ國タラニト欲ス  
レハ必ス喫緊須要ノ需トナル而シテ其功カヲ施  
スル法ヲ得スレテ唯其用ヲ國民ノ上ニシテ  
ルキハ外邦之ヲ認メス其權隨テ辞シ去ル

日本ノ如キ外臣未タ其特立タルヲ認メサル  
ノ間ハ其權全然無事ニシテ存スト雖モ已ニ交  
ヲ外ニ開キ他邦其及外ノ權ヲ認ムルヨリ以來  
外國領事ニ彼特異ノ權ヲ賜フニヨリ遂ニ其境  
内自主ノ權一分ヲ失ヘリ曰ク然則何ヲ以テ此  
權ヲ恢復セン曰ク彼國通私法ヲ施行スルノ  
審廳ヲ立ルニアリ曰ク縱令審廳ヲ立ルモ其坐  
ヲ充ルル人ナキヲ如何曰ク今二三賢能ノ審司  
ヲ聘シ其審廳ノ長タルニ之ニ屬スルニ少  
壯能ク法ヲ學フニ適スル人ヲ以テ之ニ配業

ニ就カシメハ數年ヲ出テハ必ス多ク堪能  
審司ヲ生スヘシ

抑商國ノ常ニ賢能ノ審司ヲ生スル者ハ何ソヤ  
蓋シ商常ニ富ヲ殖シ禮文智識必ス富ヨリ生ス  
レハナリ是ヲ以テ富國ハ其政必美反乱隨テ希  
是其民恒ニ務ニ忙ニク不平ヲ鳴シ禍乱ヲ企ル  
ハ違ナケレハナリ

歐洲諸國ノ中商ヲ怠ルノ國ハ常ニ変乱ニ罹リ  
高ヲ務ムルノ國多クハ此禍ヲ免ル佛蘭西ノ如  
キ百年以前マハ交易ヲ裕ムルノ國ニ非ス西

班牙<sup>1</sup>ポ<sup>1</sup>ラ<sup>1</sup>ニ<sup>1</sup>ド<sup>1</sup>、如キモ亦商國ニ非シナリ凡ソ  
是等ノ國民心常ニ定マラス及側子隨テ出テ變  
乱続テ起ル然ルニ英和蘭ノ如キ此害ヲ免レタ  
リ商ヲ務ルノ益以テ觀ルヘシ

和蘭ノ國久ク歐洲ノ寶庫ト称セラレタリ  
其殷富憶フヘシ又長ク英ト海上ノ權ヲ爭  
ヘリ其強カ察スヘシ彼萬國通私法ノ原理  
ヲコテ發揚セシモ亦其國ノ法家ニ係ル何  
ソヤ其商ヲ務ムルノリ其廣直ヲ尊フナリ  
其工作ヲ勉ムルナリ此三者終ニ此富強開

明ヲ致セルナリ但其尼ニ英々競フ克ハサ  
ルモノハ其國ノ資産昔ヨリ英ノ夥キニ及  
ハナリ

近年米國內乱ノ如キモ其禍源ハ最モ闇昧ニシ  
テ商事ヲ事トセサル南部數州ノ人民ヨリ萌セ  
ルモノニシテ北部ノ商ヲ務ムル諸州ノ民ハ常  
ニ法ヲ愛シ令ニ遵フナリ其商ヲ務ムルノ益亦  
以テ觀ルヘシ

抑商國ノ民ハ必ス萬國通法ノ理ヲ解ス若シ之  
ヲ解セサレハ交易ノ事罷ム而メ方今之ヲ實際

ニ行フノ國ハ唯歐米ノ中數文明國ニ畫ルノミ  
ウイトニ氏曰ク萬國通公法ハ唯常ニ歐羅巴洲及  
其人種ノ移住セル文明ノ耶蘇教國ニ疆レリト  
顧フニ此謾言今應ニ東方ノ民ヲ指シ言フヘカ  
ラサラントス何トナレハ則日本ノ如キ近頃纔  
ニ各國ノ交會中ニ入ルト雖モ其開進ノ迅速ナ  
ル測ルヘカラサルモノアリ今ノ勢ヲ以テ之ヲ  
觀ルニ其富尊榮ヲ成ス所以ノ理制即萬國通公法ヲ  
立ル東方諸國ニ於テ第一者ノ地ヲ占ムヘシ若  
シ今ノ方向ヲ變セス一是ニ其到處ヲ求ハ必ス

應ニ歐米各國ノ眠ヲ醒スニ足り且其國ヲ萬國  
ト上ニ位スルニ勝ユル者アルヘケレハナリ  
凡ツ此小冊子ニ述ル處一ニ余カ發明ニ出ニモ  
ノナレ但其原理ヲ了解シ易カラシメニカ為ニ  
學例引證ニ至テハ聊カ余カ考思ヲ勞セルノミ  
若シ尚其詳密ヲ悉サント欲セハ宜ク「フィルモール」  
「ウエストレーキ」「サウエニ」氏等カ萬國通私法「ストー  
「リ」氏カ各國治訟異論等ノ書ヲ參觀スヘシ  
一千八百七十三年七月日於紐育州ブロックリン府  
為辱友若山儀一君誌  
ロベルト・ゴーンストン

萬國通私法

合衆國狀師ロ、ルトレヨニソニ筆授

租稅推助 若山儀一 訂譯

第一編

各國殊法之事

剖判ノ後國土ノ分ル、ヤ久シ民其語ヲ同クセ  
ス國其俗ヲ異ニス是ヲ以テ其民ヲ治ムルノ法  
亦各其趣旨ヲ殊ニス若シ盡ク其例ヲ引カハ枚  
舉ニ違アラサルベシ今其二三ヲ陳列シ以テ其

要領ヲ得セシム

夫何國ニ於テモ尚弱者以テ人ト約束ヲ為シ義  
務ニ執掌スルヲ得ス而シテ其尚弱ヲ限ルノ期亦  
各相異リ英佛米ノ三國ニ於テハ人生レテ二十  
一歳ニ至レハ尚弱ノ期尽テ初テ成人ト齡スル  
ヲ得普魯斯ニ在テハ二十四歳羅馬律ヲ用ルノ  
國ニ在テハ二十六歳ヲ限トス  
歐羅巴洲中或國ニ於テハ如德亞教宗ノ人ニ  
土地ヲ有スルヲ禁スルノ法アリ  
英ニ於テハ婦ノ財産尽ク其夫ノ有タリ米國紐

育洲ニ於テハ夫其妻ノ有テ種ニスルヲ得ス但  
妻自ラ之ヲ賣リ或ハ之ヲ其好ム所ノ者ニ典フ  
ルヲ得

某國ニ於テハ婚姻ノ礼宗教ノ式ニ由ラサルヲ  
得ス又或國ニ於テハ學ニ之ヲ男女間ノ約束ト  
看做シ雙方ノ好相合フウエハ宗教ノ式ニ由ル  
ヲ要セス

遺念ノ法ノ如キ各國大ニ其様ヲ異ニス  
貸借ノ利子ニ至テハ當ニ各國輕重アルノミナ  
ラス米ノ如キハ各州大ニ厚薄アリ蓋シ各國所

立ノ法ハ年々世々其變換ニ係ル是ヲ以テ今年  
ノ法ニ於テ許可セラル、所ノ約束明年之ヲ為  
スヲ禁セラル、アリ或ハ一法ニ從テ為ス所ノ  
約束其法ノ廢セラル、後數年ニシテ之ヲ完成  
セシトテ要セラル、アリ繼嗣受産ノ法嫁婦ノ  
權等最多ク其變易ニ會フ是當ニ殊國異州ノ三  
ナラス同邦同治ノ間ト雖モ問治ノ牴牾ヲ生ス  
ル所以ナリ而ノ各國各州ノ異法ヲ照較シ往前  
現今ノ殊律ヲ斟酌シ正當ノ理ヲ以テ内外國民  
ノ訟ヲ判シ公平ノ道ヲ以テ治下治外ノ民ヲ處

シ互ニ其推理ヲ相侵凌セシメサルハ即獨立國  
體ノ基本交易ヲ通シ各國ト交ルノ要訣ニシテ  
抑又此書ニ解述スル所ノ真意ナリ

各國通法之事

今夫英國ノ法日本ノ律全ク相異ト雖モ日本ノ  
人英人ト約束ヲ為ストキハ其審廳ニ控白シテ  
之ヲ完成セシムルヲ得ヘク英國人ノ日本人ニ  
於ルモ亦然リ能ク日本審廳ニ出テ其完成ヲ要  
ムルヲ得ヘシトス若シ兩國ノ政府此事ヲ聽サ  
スニハ其民互ニ貿易通商スル克ハス或ハ其親



族係累ノ故ヲ以テ他國ニ至ルヲアラニニ動モ  
スレハ其本源純一ノ人推テ超越スルヲアルヘ  
レ之ヲ要スルニ人若シ法上關聯ノ故ヲ以テ他  
國ノ處分ヲ受ルニ至テハ其所生國法ノ許ス所  
ノ権理モ其取捨増減スル所ニ任スキノ三  
夫一國ニ於テ結フ所ノ約束之ヲ他國ニ於テ完  
成スルヲ要スルヲアルヘク争訴フル所ノ財産  
法ヲ異ニシ且地ヲ異ニセル處ニアルヲアルヘ  
ク原告被告ノ兩黨共ニ外邦ノ人タルヲアルヘ  
ク又一方ハ治下ノ民ニシテ一方ハ治外ノ人タ

ルヲアルヘシ此時ニ方ツテ其訟ヲ聽クノ要務  
ハ其約束ヲ結フ所ノ地ト其内民外人タルヲ問  
ハス唯何レノ國法ニヨリテ之ヲ裁判スヘキヤ  
ヲ考案シ應當ノ審断ヲ為スニアルノ三若シ夫  
然ラステシテ同情ノ訟ヲ聽クニ各國ノ審廳擅ニ  
其區處ヲ異ニスルキハ爰ニ審判ノ標準ト為ス  
者無ルヘシ但之ヲ斷スル齋等ニシテ初メテ之  
ヲ正當公平ト云フヘキノ三  
蓋シ正當公平ノ審判ヲ為サニテ務ノハ當ニ  
他國ノ法律ヲ識認スルノミナラス彼是人民ノ

訟ヲ決スルニ方テ能ク之ヲ我國法ト共通應用  
スルニ在リ諸文明ノ國ニ在テハ今皆此事アリ  
之ヲ名ケテ互法共通ト云フ下ニ數條ノ例ヲ挙  
テ以テ其義ヲ明サン

夫米國紐育州ニ於テハ借錢ノ利子九金百ニシ  
テセテ贏ヲ法トシカ<sup>リ</sup>リホルニヤニ於テハ什ノ  
一或ハ之ヨリ尚重ク收ムルヲ得今某甲紐育ニ  
於テ其乙ニ錢ヲ借り同所ニ於テ之ヲ償還セシ  
ト<sup>リ</sup>テ約シ而後某乙居<sup>リ</sup>テカ<sup>リ</sup>リホルニヤニ移シ期  
至ルモ甲約ニ背キテ償還セス乙之ヲ其地ノ審

廳ニ告ルトキハ其廳之ヲ斷シ甲ヲシテ本錢ノ  
外分七ノ利子ヲ償ハシムヘシトス是甲乙始成  
約ヲ期スルノ地紐育ニ在ルヲ以テ其利子其地  
法ノ許ス所ニヨリテ之ヲ收メシムレハナリ又  
若シ某甲カ<sup>リ</sup>リホルニヤニ在リ某乙ニ錢ヲ借リ  
而後移テ紐育ニ來リ期至ルモ約ヲ全クセス之  
ニヨリテ同所ノ廳ニ告ラレトキハ其廳甲ヲ  
シテカ<sup>リ</sup>リホルニヤ<sup>リ</sup>測法ノ許ス所ノ利子ヲ收メ  
シムヘシ是其期約ノ地カ<sup>リ</sup>リホルニヤニ在ルヲ  
以テナリ若シ或ハ甲人他國ニ移住シ其審廳ニ

許ラレ、トアルニ方ツテモ其廳之ヲ決判スル  
尚前例ニ於ルカ如クナルヘシ  
凡、紐育ノ法女人ニ嫁スルノ後モ尚自ラ其財  
産ヲ有スルヲ得英法ニ於テハ婦ノ財産尽ク其  
夫ノ有トナル故ニ若シ英國ノ女出テ、紐育ノ  
人ニ嫁スレハ其有スル所ノ浮財依然トシテ自  
ラ之ヲ有スルヲ得又紐育ノ女英人ノ婦トナル  
トキハ其浮財ハ紐育ニ在ルモ、ト雖モ概シテ  
皆其夫ノ有トナル蓋シ嫁婦ノ推皆其夫ノ本貫  
ノ法ニ從フヘキヲ以テ甲ニ在テハ紐育ノ法ニ

遵ヒシニ在テハ英法ヲ奉スレハナリ  
又若シ日本ノ人其財産ヲ英佛米等ノ諸國ニ散  
有スル者アリ其死ニ濱スルニ方リ遺言シテ之  
ヲ其親戚ニ分與シ了リ其後三國ニ於テ其財ヲ  
争フ者アリ訴起ルトキハ三國ノ審廳先其人遺  
言ヲ為スノ式如何ヲ問質シ其式能ク日本ノ法  
ニ合フニ於テハ之ヲ認メテ亦其國法ニ合フト  
做シテ審斷スヘク若シ日本國法ニ合ハスニハ  
亦是ヲ其國法ニ背クト做シテ區處スヘシトス

第二編

別過法之事

別過法トハ異種ノ人域外ノ民ヲ待ツノ法ニシテ  
テ專ラ文明未開ノ國ニ行ハル即北亞墨利加ノ  
野蠻印度人ノ間ニ此法アリ往昔日耳曼人ノ遊  
獵ヲ專ラニシテ常居ヲ定メサル年代ニ此法行  
ハル又佛蘭屈人倫貌兎土人等伊太利ニ勝テ其  
地ヲ畧セシトキ二國治下ノ民ハ各其固有ノ法  
ヲ以テ之ヲ御シ伊太利ノ土着ハ尚羅馬律ヲ以  
テ之ヲ制セリ又所謂耶蘇教國ト稱スル歐洲各  
國ノ中ニ於テスラ稍近世ニ至ルマテ尚如德亞

宗教ヲ奉スルノ人ヲ視テ別種ノ民ト做シ之ヲ  
治メ又合衆國ニ於テハ輒近南北分争ノ後ニ至  
ルマテ黑人ヲ苛制スルノ法行ハレ纔ニ黑人ノ  
血統タルヲ皮膚ニ徴ハス者アレハ之ヲ認テ非  
類トナシ更ニ人タルノ權ヲ有セシメス又今ニ  
至ルト雖モ都兎格ニ於テハ尚判然ト別過ノ法  
ヲ立ツ  
東印度及亞細亞諸國ニ於テハ上古ヨリ別過ノ  
法アリ異邦ノ人其地ニ至レハ之ヲシテ其民衆  
ノ間ニ交ラシメス且其遺ス所ノ子孫ニ至ルマ

テ其父祖ト同ク永ク認テ驕旅ノ外人ト做ス尚  
且東印度ニ於テハ印度種回々教種ノ別アリ種  
人各其固有ノ法ヲ遵奉ス

昔羅馬ノ世ニ於テ別遇法ニ似タル者アリ等屬  
ニ從ヒ稟ル所ノ権理ヲ殊ニス即其レウスハ無  
疆ノ権理ヲ受ケラチニハ其権理稍輕クベレグ  
リニハ外國人及羅馬ノ府中ニ奉貫ヲ有セサル  
者ヲ指スノ名ニシテ更ニ法ニ於テ許ス所ノ権  
ヲ受ルヲ得ス右別遇法ハ唯其之ヲ立ル所ノ國  
ニノ三行ハルヘクシテ他國ノ政府ニ於テハ之ヲ

容認通用スルヲ許サス

局地法之事

局地法トハ一局地方ノ中ニ立ル所ノ法ナレド  
前法ノ如ク人種ノ別等屬ノ分ヲ為ス一少ク外  
國ノ民ヲ保護スル一尚治下ノ民ノ如シ且外國  
ノ法律ヲ容認シ其審判ヲ要スルニ方テハ之ヲ  
通用スルヲ許スナリ是ヨリ各民同視各法同通  
ノ語アリ若シ此ノ同視同通ノ事ナクニハ一國  
ニ於テ結フ所ノ約束他國ニ於テ之ヲ完成セシ  
ムル一能ハシ

蓋レ此法タル素其局地ノ民ヲ保護スルカ為ニ  
設クルヲ以テ一州一郡ノ間ニアリテモ屢互ニ  
抵觸スルヲ多シ夫英國ニ於テハ唯其長子父祖  
ノ遺産ヲ受ルヲ普通ノ法トス然ルニ<sup>1</sup>ケン<sup>1</sup>ト郡  
ニ於ルカ如キハ二子三子ト准モ齊ク遺産ヲ受  
ルヲ得之ヲ<sup>1</sup>グラウエルカイ<sup>1</sup>ンド<sup>1</sup>ノ法ト云フ又倫  
敦習俗法ト名クルモノアリ英國普通ノ法ト異  
ナリ  
日耳曼ニ於テハ其協同各國互ニ其法律ヲ異ニ  
セシハ論ナク一國一郡一邑一府ノ間ニシテ其

局地法千殊萬異ナリ即<sup>1</sup>ブレ<sup>1</sup>スロウ<sup>1</sup>府ニ於テハ  
一千八百四十年ニ至ルマテ同府ノ中ニシテ繼  
嗣ノ事嫁婦ノ有等ニ就キテ五箇ノ異法アリキ  
而シテ此等ノ法每街之ヲ異ニセシアリ或ハ每家  
之ヲ殊ニセシアリ尚且一屋ニシテ二箇別法ハ  
行ハル、境界上ニ立ツトキハ其家ニ住スル者  
一半ハ一法ニ遵ヒ一半ハ他法ヲ奉セサルヲ得  
サリキ  
米合衆國ノ如キハ數多ノ獨立州ヲ集メ成レル  
ヲ以テ各州互ニ特異ノ法律ヲ以テ其民ヲ管轄

ス州又數邑數府ニ分レ亦各其法ヲ立ツ故ニ州  
法動モスレハ國法ト異リ邑法州法ト殊ニ府法  
邑法ト差アリ

是ヲ以テ凡ソ一國或ハ同治ノ間ニシテ右ノ如  
キ法律ノ牴牾ヲ統理スルカ爲ニハ左ノ規律ヲ  
以テ總則ト做スヲ得ヘケン

凡ソ一國ノ中ニシテ其局地ノ法區々異ナルヲ  
ルニ方ツテハ總國或ハ全州ノ法例中全ク相反  
乖セル條目ヲ載スルニ非レハ宜ク各局地ノ法  
ヲ採用スヘシ

按スルニ府民ハ府法ヲ守リ邑民ハ邑法ヲ奉  
スヘシト雖モ若シ其府邑ノ法全州或ハ轄國  
ノ法ト牴牾スルトキハ州國ノ法ニ從ハサル  
ヲ得サルカ如シ迄ク之ヲ我國ニ取テ譬フレ  
ハ東京府下ノ民ハ東京府ヨリ發スル所ノ布  
令ヲ守ルヘシト雖モ太政官ヨリノ布令ト其  
趣意異ナルモノアレハ宜シク太政官ヨリス  
ル者ニ從フヘキカ如シ而ノ人民ノ訟ヲ聽ク  
ニ方ツテモ東京府ニ一種舊有ノ法アリテ之  
ヲ審決スルヲアリトセシニ新律綱領ノ條目

ノ趣旨ニ違フ所ナケレハ其法ヲ用フヘキカ  
如シ

蓋シ古ヨリ今ニ至ルマテ何國ト雖モ此殊法ノ  
諸例ヲ其國法ヲ以テ拮制スルヲ企テシトナレ  
但之ヲ審判學ノ決スル所ニ任スルノ三  
若夫然ヲスレテ牽強附會肆ニ膠柱ノ斷ヲ為サ  
ントスルハ其國民ト雖モ之ニ服スル者ナカ  
ルヘシ況ンヤ交ヲ海外ニ結ニテ商ヲ他國ニ通  
スルニ方ツテ彼民我民ト結フ所ノ約束ヲ遂行  
スルヲ聽サスニハ彼是ノ民共ニ約束ヲ為スヲ

危ニ貿易ノ事隨テ罷ムヘシ

### 第三編

#### 國外不通法之事

又茲ニ法律アリ之ヲ立ルノ國ニ非レハ容認ス  
ルヲ許サレス其類分テ二トナス

其一擅制束縛ノ條例

其二文明政府ノ容認スヘカラサル意見ニ

基ケル典法

凡ソ同國同治ノ民ニシテ其屬ヲ分テ之ヲ別視  
シ他屬ノ民ノ受ル所ノ權ヲ此屬ノ民ニ受ルヲ



許サスレテ其志向ヲ制壓スルヲ務ル條例之ヲ  
第一類ニ屬スルニ歐羅巴ノ某國ニ於テ如  
德垂教宗ノ人ニ土地ヲ有スルヲ禁シ又某國ニ  
於テ天主教ヲ奉セサルノ民ハ民權ヲ受ルヲ得  
サル如キ卽是ナリ是等ノ法ハ立ルノ國外ニ  
出レハ容認セララルヘカラス  
然レトモ束縛ノ意ニ基クニ非スレテ一是ニ民  
權ヲ有スルノ人ヲ保護スルカ爲ニ設クル所ノ  
條例ノ如キハ此例ニ非ス假令ハ尚弱者ノ權分  
ヲ限ルノ法嫁婦ヲシテ約束ヲ以テ夫妻ノ義務

ヲ互ニ負ハシムルノ法ノ如キ卽上ノ如ク人ノ  
權利ヲ棄ビ可厭ノ別ヲ立ルカ爲ニスルニ非レ  
ハ何國ニ行クモ容ラレサル所ナク且其固有ノ  
法ト通用セララルヘシ而シテ又一是ニ權策ニ出テ  
阻遏ノ意ヲ含メル法律ノ如キハ他國ニ於テ亦  
之ヲ容認スヘカラス卽廢功法ノ如キ其之ヲ許  
シ典フル國ニ在テハ只發明者ノニ製作專賣ノ  
權ヲ有スレトモ他國ノ民ニハ此法ヲ及スヲ得  
サルヲ以テ他國ノ民ハ互ニ他人ノ發明スル所  
ノ物ヲ隨意ニ製造賣買スルヲ得ルカ如シ

第二類文明ノ政府ノ容認スヘカラサル意見ニ  
基ケル典法トハ假令ハ都児格ニ於テ一夫多妻  
ヲ娶ルヲ得其典法亦之ヲ許ストイエトモ合衆  
國審廳ニ於テハ彼地ニ於テ結ヘル多婦ヲ娶ル  
ノ約束ヲ完成セシムルノ訟ヲ問治スヘカラサ  
ルカ如シ是合衆國ノ政教ノ意ニ悖ルヲ以テナ  
是故ニ亦外國ニ於テ賣奴ヲ購求スルノ約束  
ニ就キテノ案件ハ合衆國審廳ノ處断セサル所  
ナルカ如シ

第四編

推分之事

推分トハ人ノ推ヲ受ケ或ハ事ヲ行フノ分限ヲ  
指ス夫人ノ奴タル者ハ此奴專ラ記念遺産ヲ受  
ケ婚姻ヲ約シ其他一切獨立シテ義務ニ鞅掌ス  
ルヲ得ス故ニ之ヲ更ニ推ヲ受ケ事ヲ行フノ分  
限ヲ有セスト云フ尚弱者ハ之ニ及シテ推ヲ受  
ルノ分限ヲ有ス故ニ記念遺産ヲ受ケ田宅資産  
ヲ有スルヲ得然レモ未タ專ニ事ヲ行フノ分限  
ヲ有セス故ニ必須ノ需メアルニ非レハ人ト約  
束ヲ成シ自ラ義務ニ鞅掌スルヲ得ス是ヲ以テ

之ヲ一半畫ル所ノ分限ヲ有スト云フ  
 某國ニ於テハ人ノ婦妻タル者權ヲ受ケ事ヲ行  
 ノ分限甚畫リアリ其有スル所ノ財產盡ク夫ノ  
 有タリ且其夫ト偕フノ日ハ如何ナル約束モ人  
 ト結フ能ハス又某國ニ在テハ其財產ノ事ノミ  
 自ラ之ヲ擅ニスルヲ得  
 凡ソ人一國ノ籍ニ入ルトキハ他邦ノ人ト雖モ  
 關政交衆ノ權ヲ受ルヲ得又人已ニ籍ニ入り且  
 齡尚弱ヲ過レハ權ヲ受ケ事ヲ行フ普通ノ分限  
 ヲ有ス

蓋シ法人ニ權分ヲ授ルトキハ亦之ニ義務ヲ課  
 ス即人一國ノ籍ニ入ルトキハ其國法ヲ奉シ其  
 政府ヲ維持セサルヲ得ス男女相婚スレハ夫妻  
 互ニ其權ヲ有シ其義務ヲ負ヒ夫ハ必ス其家族  
 ヲ給養セサルヲ得ス然ラサレハ法之ヲ強ルカ  
 如シ之ヲ要スルニ權分ノ字義ハ尨ノ二項ニ括  
 束スヘシ其一推理義務其二權ヲ受ケ義務ニ鞅  
 掌スルノ能不能是ナリ而シテ此推理ト義務トハ  
 必ス豫有ノ事實前行ノ原由ヨリ起ル故ニ奴隸  
 ノ權分ヲ有スル克ハサルハ其當奴ノ事實ヨリ

来リ尚弱者ノ本分相畫レルハ其齡未々成人ニ  
満タサルノ事實ヨリ来リ夫婦ノ推理及義務ハ  
婚媾ノ事實ヨリ来リ入籍者ノ推理義務ハ其帰  
化或ハ所生ノ事實ヨリ来ル

蓋シ以上ノ前行事實人ノ本貫ノ地ニ於テ起リ  
政府ニ於テ之ヲ法ニ合フト認ムルトキハ則チ  
其從テ受ル所ノ推分何國ニ到ルト雖之ヲ認テ  
其人當有ノ推分ト做スヘシ但前篇ニ載スル所  
ノ法ノ如キハ此例ニ非

按スルニ米國ノ女英人ニ嫁スルトキハ即英

人ノ妻タレハ其財産ヲ有スルノ推ナシ英國  
ノ法夫其妻ノ有ヲ擅ニスルヲ得レハナリ故  
ニ何ノ國ニ到ルト雖モ此英夫ノ推分ヲ認テ  
法ニ叶フトスヘシ而ノ夫ニ此推分アル者ハ  
即夫婦相婚スルノ事實ヨリ来リ且其婚姻ノ  
法英法ニ合ヘハナリ然ルニ其夫齡未々成人  
ニ満タサルカ或ハ已ニ他女ヲ娶リテ妻トシ  
一時ニ二女ヲ妻トセントスル如キ英國ノ法  
ニ叶ハサルヲ以テ之ヲ夫婦ト認メス是ヲ以  
テ他政府ニ於テモ之ヲ夫婦ト識認セサルカ

如レ

法上關聯之事

法上關聯トハ兩夥互ニ相充ル所ノ地位隨テ互ニ負フ所ノ義務ヲ謂フ例スルニ甲人乙人ニ物ヲ典スル片ハ典主典者ノ關聯生シ又甲人乙人ニ錢ヲ借ル片ハ欠者債主ノ關聯生シ甲人乙人ニ償還スヘキノ義務ヲ負ヒ男女相婚スルトキハ夫婦ノ關聯生シ夫ハ其妻ヲ養フノ義務ヲ負ヒ妻ハ其夫ニ順フノ義務ヲ負カ如レ其他父子主僕ノ關聯等類推スヘシ而シテ此法上關聯ノ景

況ニ從ヒ各國ノ法人ヲレテ互ニ其義務ヲ但シ義務ヲ盡サシムルヲ許ス蓋シ人ノ權分ハ常ニ其國法ノ定ムル所法上關聯ハ多クハ互相ノ約束ヨリ成ル故ニ甲ハ專ラ其人本貫ノ國法ニ關シ乙ハ或ハ此法ヲ以テ一概ニ断スヘカラサルモノアリ是ヲ以テ先此二語ノ義ヲ明ニシ其法上ノ成果ヲ知ラズニハアルヘカラス

第五編

本貫及住址之事

本貫及住址ノ二語其素羅馬律ヨリ傳來ス而シテ

大藏省

住址ノ語ハ今ニ至リ殆ト二千年尚其義ヲ同ク  
 スレトモ本貫ノ語ハ已ニ其要義ヲ失ヒ今ハ唯  
 住址ノ義ト做シ用フルノミ  
 凡ソ羅馬ノ律ニ於テハ人其所生ノ地ニ於テ其  
 被轄府ノ入籍人タリ又住址ヲ得レノ地ニ於テ  
 亦其被轄府ノ入籍人タリ且人一府ノ籍ニ入レ  
 ハ其所生ト住址トニ係ラス其人必ス其府ニ奉  
 スヘキノ義務ヲ負ヘリ租稅ヲ納レ軍役ニ赴キ  
 撰ミ任セラル、處ノ職ヲ務メ府法ヲ遵守シ府  
 官ノ命令ニ順ハサルヲ得サリシカ如シ而メ人

若何府ノ籍ニモ入ラサル者ハ之ヲ認テ流民又  
 無籍ノ者ト為シ其人ハ則チ入籍者ノ權分ヲ有  
 スルヲ得ス又人ト法上關聯ヲ約スルヲ得ス何  
 トナレハ各人ノ推理ハ其被轄府ノ法ニヨリテ  
 之ヲ準度シ之ニ勒從セシムヘク又事ヲ行フノ  
 能力モ之ニヨリテ容認セラル、所ナレハ流民  
 ノ如キ其籍ノ屬スヘキ所ナキモノハ何ノ法モ  
 其推理ヲ討求準度スルヲ克ハサレハナリ  
 蓋シ羅馬ノ世ニ在テハ多人輻輳ノ都會ヲ名ケ  
 テ之ヲ府ト云ヒ府毎ニ一ノ獨立政府ヲ置キ其

法律ヲ立テ以テ屬下ノ民ヲ治ム其府ノ所轄ハ  
 帝ニ都會ノミニ畫ルニ非ス周圍廣濶ノ土壤ヲ  
 合シテ皆其所管トシ凡ソ兵馬ヲ起シ外國ト交  
 ル等ノ大事ニ非ルヨリハ盡ク府官自ラ之ヲ裁  
 制スルノ特權ヲ有セルモノヲ云フ  
 羅馬ノ共和政治變シテ立君ノ世トナリ未ダ幾  
 許ナラス帝「カリギユラ」勅ヲ布キ凡ソ羅馬統轄ニ  
 屬スルノ人民ハ之ヲ國籍ニ入ルヘシト為ス是  
 ヲリ各人皆二回入籍ノ式ヲ行ハサルヲ得ス即  
 一回ハ其被轄ノ府籍ニ入り一回ハ羅馬ノ國籍ニ

入<sup>ル</sup>ナリ因テ此帝大ニ史家ノ誣毀スル所トナリ  
 然レモ此事羅馬統國ノ法ヲ立ル一大初歩ニシ  
 テ後帝「ジョスタニア」ニ至リ之ヲ大成スルノ基  
 本トナレリ米國ノ共和政治モ亦羅馬置府ノ意  
 ニ基キ每州各其主長ヲ置キ以テ全州ノ萬機ヲ  
 督シ闔國總政府ニ盟同スヘキ事件ノ外皆特立  
 裁制ス而シテ入籍ノ法ニ至テハ良之ヲ彌縫シ三  
 十餘州ノ中何州ノ籍ニ入ルモ其人ハ即米國ノ  
 入籍人トス若シ外國ノ人歸化籍ニ入ル者アレ  
 ハ亦何州ノ籍ニ入<sup>ル</sup>モ即之ヲ米國人ト做シ其人

ハ能ク其米國人タルノ推理ヲ受ルヲ得ルナリ  
實子本貫傳子本貫之事

羅馬律ニ於テハ凡ソ實子ノ本貫ハ父ノ本貫ニ  
資リ傳子ノ本貫ハ母ノ本貫ニ資ル故ニ實子生  
ルニ方ツテハ當時父ノ入籍タル所ノ地ヲ其  
本貫トシ野合ノ子ハ其生ルニ方ツテ母ノ入  
籍スル所ノ地ヲ其本貫トス若シ父母共ニ本貫  
ヲ有セサレハ其子本貫ノ資ルヘキ所ナキヲ以  
テ其子本貫ヲ有セスト云フ是其父母之ニ資フ  
ヘキノ權ヲ有セサレハナリ

入籍人人ニ同權ヲ典フルヲ得ル事

凡ソ羅馬律ニ於テハ其籍ニ入ル者其本貫ノ法  
ニヨリテ唯其一身ニ推理ヲ受得ルノミナラス  
法上關聯ノ故ニヨリテ亦他人ニ其入籍者タル  
ノ權ヲ典フルヲ得故ニ婚配法上關聯ニヨリテ夫ノ  
本貫妻ノ本貫トナリ夫死スレハ再ヒ其本貫ニ  
復ス而シテ其夫ニ偕フノ間ハ一切元始本貫ニ奉  
スヘキノ義務ヲ免ル養父ノ本貫ハ養子ノ本貫  
トナリ已ニ成人シテ父ノ轄輒ヲ放ルレハ其所  
生本貫ニ復シ奴主其奴ヲ放釋スレハ主ノ本貫



奴ノ本貫トナリシカ如シ

所生本貫擇住本貫之事

羅馬律ニ於テハ入籍者ニ様ノ本貫ヲ得所生本貫擇住本貫是ナリ所生本貫トハ前已ニ言フ所ノコトク其生ル、所ノ本貫ナリ人己ニ以本貫ヲ有スレハ其擇ム所ニ行キ本貫ヲ求ムルヲ得是其權分ノ来ル所ノ往前ノ事實ナリ而シ人此擇住本貫ヲ棄テ他ニ行クモ尚其所生本貫ヲ保ツヲ得タリ今ノ米國歸化ノ法亦是ニ似ル他國ニ所生本貫ヲ有スル者来リ籍ニ入ルトキハ即

合衆國人タルヲ得ルナリ

擇住本貫トハ已ニ推理ヲ得ルノ能力ヲ有スルノ人其終身ノ住址ト為シ其業ヲ営ミ人ト法上關聯ヲ約スルノ本所ト定ムルカ為ニ自ラ擇ミ移ルノ地ヲ云フ然ルニ若シ人其之ニ隨ヒ行ク所ノ所生本貫ヲ有セサルカ如キハ其甲處ヲ去テヨリ乙處ニ本貫ヲ得ルマテノ間ハ猶飄然タル一流民ノ如ク一切ノ推理ヲ失フヲ以テ一日モ其心ヲ安ニスルト克ハサリシナルヘシ米國ノ法ニ於テハ一旦國籍ニ入ル者ハ其住址

ヲ某州中ニ有スル有セサルヲ問ハス常ニ合衆  
國人タリ蓋シ人ノ權分ハ常ニ其人ニ隨行クヲ  
以テ一州ヲ棄テ他州ニ移住スルトキハ能ク前  
州ノ法ヲ棄ルヲ得ルト雖モ其國法ノ賜フ所ノ  
權分ハ之ト影從スルナリ但擇住本貫ヲ得ルニ  
法アリ人若シ自ラ好ムテ擇ニ移ルニ非レハ之  
ヲ本貫ト為スヲ得ス故ニ流人囚徒等ノ如キ遷  
サル、處固ヨリ自ラ好ムテ行ニ非ス強テ此ニ  
遣ラル、ヲ以テ之ヲ本貫ト為スヲ得ス又人其  
移リ行ク處ヲ終生ノ住址ト定ムルニ非レハ亦

之ヲ其本貫ト為スヲ得ス故ニ學徒兵卒官人等  
ハ縱令久ク一處ニ駐ルモ之ヲ本貫ト為スヲ得  
ス但前ノ本貫ハ依然ト之ヲ有スルヲ得ヘシ又  
家屋土地ヲ有スルノ故ノミヲ以テ其在ル處ヲ  
本貫ト為スヲ得ス是其人從來果シテ其處ニ永  
住スルノ事圖ルヘカヲサレハナリ  
上文載スル所ノ諸例ヲ照較シ各民交際ノ上ニ  
於テ尤ノ準則ヲ立ルヲ得  
凡ソ人一處ニ於テ住址ヲ受ケ得ルトキハ自ラ  
出テ、其處ノ地法ニ遵フヘク其約スル所ノ法

上開聯モ固ヨリ亦其地ノ條例ニヨリテ審判セ  
ラル、所ニ黙從スヘシ

右準則ハ古ヨリ各國互ニ相容認スル所ナリ然  
ルニ日本ニ於テハ各國ノ領事ヲシテ權ニ内外  
國民ノ際ニ起ル所ノ訟ヲ審判セシムルヲ以テ  
全ク此則ヲ破ラレタルニ似リ蓋シ獨立國ノ最  
尊フ所ノ權ハ能ク其境内ニ令ヲ布キ法ヲ行ヒ  
若シ其法ヲ犯サントスル所ノ外民ハ之ヲ其國  
ニ入ラシメサルニ在リ嗟呼夫此權ヲ持重セス  
シテ交ヲ外ニ結フ何レノ國ト雖モ危キヲ免ル

ヘカラス

### 第六編

古法今法出訟ノ所ヲ異ニスル事

羅馬律ニ於テハ凡ソ人他人ト約束ヲ結ハント  
欲スルカ或ハ其國法ノ利益ヲ被ラントスレハ  
必ス其國籍ニ入ルヲ要セリ今法ニ於テハ内外  
ノ人ヲ問ス一樣ノ定限ヲ以テ其住址ヲ占メシ  
メ且一樣ノ法ヲ以テ其訟ヲ治ム  
又羅馬律ニ於テハ一切約束ヨリ起ルノ訟ハ其  
被告人ノ所生本貫或ハ擇住本貫ノ訟庭ニ白セ

ナルヲ得ス蓋シ此法ヲ立ルニ四箇ノ理アリシ  
ナリ

凡ソ人皆其本貫ノ地官ニ聽従スヘキノ義務  
ヲ負フ一ナリ

被告人ノ所有物ヲ區處スルニ最近易ナルニ  
ナリ

見證人ヲ得ルニ最容易ナル三ナリ

被告人本貫ノ法其地ノ審司他ノ審司ニ比ス  
レハ素ヨリ能ク之ヲ了解スルノ三ナラス法  
書ニ載セサル土地ノ習法ニヨリテ約束ヨリ

起ルノ案件ヲ審判スルヲ殊ニ多キ四ナリ

今法ニ於テハ佛律ヲ除クノ外身上案件ハ必ス  
其人ニ影従ス故ニ被告人國ヲ去レハ其告狀隨  
ヒ行ク或ハ何ノ國ヲ問ハス其財産ヲ遺ス所ノ  
地ニ行ク是其之ヲ抄收シ易キニヨルナリ蓋シ  
被告人若シ真ニ債ヲ負ヒ或ハ約ニ背クニヨリ  
テ損失ヲ賠補スヘキニアツテハ縱令出テ他  
國ニ奔ルモ其責ヲ免ルヘカラス其義務ハ必ス  
影従スルヲ猶本國ニ在ルカ如シ然ルニ古法ノ  
如ク原告人ヲ必スシモ被告人本貫ノ訟庭ニ

控白セシムルトキハ其欠者若シ外國ノ民タル  
ハ債主行テ其國ノ訟庭ニ控告セサルヲ得ス當  
時其人若シ他ニ行クトアレハ其帰ルヲ俟サル  
ヲ得ス是甚理ニ當ラサルナリ殊ニ其告状始メ  
欠者債主カ住址ノ地ニ於テ之ヲ償還スルノ約  
束ヨリシテ起ルカ如キニ於テハ最不便ト為ス  
之ニ及シテ又一切ノ欠者ヲ扣メテ國外ニ出ル  
ヲ得サラシムルモ亦等ク理ニ當ラストス故ニ  
之ヲシテ其好ム所ニ行カシムヘシ但其義務其  
行ク所ニ隨カハシムヘシ蓋シ羅馬人ノ原告人

ヲノ被告人本貫ノ訟庭ニ控白セシメシハ唯上  
ニ載スル四條ノ理アリシノミナラス尚且治國  
ノ術已ムヲ得サルニ出シナリ夫羅馬ノ國タル  
專ラ他國ヲ侵畧シ疆土ヲ擴メニテヲ務メシカ  
ハ其統下諸國ノ民ノ他國ノ民ト商ヲ通シ婚ヲ  
結フヲ好マス殊ニ其共和政體ノ世ニ在テハ關  
政ノ士專ラ深ク思フ茲ニ注キタリ故ニ其厄勒  
ニ勝ツノ後ハ厄民ヲ禁シテ羅馬民ト貿遷婚娶ヲ  
為サシメサリシ是其之ニヨリテ統下諸府ノ民  
相合同シテ本國ニ及スルヲ恐レシナリ故ニ又

其法ニ於テハ凡ソ男子本貫ノ地ヲ去テ他國ニ  
之クトキハ其屬駐ノ日短シト雖モ其本貫ニ有  
スル所ノ財産ヲ失フノ虞ナキ克ハス人若シ  
有主ニ非ル者ヨリ財産ヲ獲ルト雖モ其之ヲ獲  
ルノ道正シケレハ一年ノ後ハ斷然之ヲ籍有ス  
ルヲ得タリキ

按スルニ假令ハ人アリ羅馬ヲ去テ他國ニ之  
キ其財産ヲ國ニ遺サニニ其親戚朋友之ヲ他  
人ニ讓附シ或ハ鬻賣スルトキハ其之ヲ受ケ  
或ハ買フ所ノ人一年ヲ經ルノ後ハ縱令本主

ヨリ尤價ヲ以テ賣還セニテ要スルモ已カ  
心ニ欲セサルトキハ之ヲ否ムヲ得又本主其  
由ヲ訟庭ニ控白スルモ法ニ於テ新有主ヨリ  
之ヲ棄フヲ得サリシナリ

又他國ヨリ帰ル者ハ其財産ヲ彼所ニ遺シ置ク  
ヲ得ス是等ノ法皆其國人ノ軍役等ヲ免レニカ  
為ニ他國ニ奔ルヲ防クノ策ナリシ

彼佛帝那破翁カ建法モ亦此意見ニ基キ一切身  
上案件ハ必ス被告人本貫ノ訟庭ニ控白セシム  
且人單ニ他人ノ財ヲ把持セルノミニシテ之ヲ

其有主タルノ證ト定ム嗟呼夫法ヲ立ル此ノ如  
キ何國カ盛大通商ノ國タルヲ得ニヤ是ヲ以テ  
他ノ歐洲諸國ニ於テハ身上案件ハ必ス其人ニ  
隨ヒ行クモノトナス即米國ニ於テモ之ヲ應用  
スル所以ナリ

第七篇

入國遵法之事

今英國ノ人佛國ニ於テ某事ヲ完成スヘキノ約  
束ヲ入ト結フトキハ其始特異ノ約アルニ非レ  
ハ其英人言ハスレテ右約束ニ就キテノ推理ハ

佛法ニ依テ管理セララル、ヲ期スルナリ米人組  
育ニ在リ日本ニ於テ經紀スル所ノ商事ニ加入  
スルトキハ其人亦其商事ニ就キテハ日本國法  
ニ服従スヘキハ固リナリ又日本ノ女英國ニ本  
貫ヲ有セル英人ニ嫁スルトキハ婦ノ本貫ハ夫  
ノ本貫ヲ取ルノ通法ニヨリ且其配合ノ契約彼  
地ニ於テ完成スヘキヲ以テ其女ハ則英國ノ法  
ニ従フヘシトス又英國ノ女日本ニ本貫ヲ有セ  
ル日本人ヲ其夫ト為ストキハ其已ノ推理ヲ準  
度スルニ方テハ日本國法ニ従フヘク再ヒ英法

ヲ引テ已ヲ保護スルノ料ト為スヲ得ス若シ其  
女英國訟庭ニ控白スルトアラニニ其審司必ス  
断シテ言ニ汝カ本貫已ニ汝ノ夫ノ本貫ニ在リ  
故ニ其本貫ノ地法ニ從ヒ且其俗習ニ循ハサル  
ヲ得スト

魯夫此例ノミナラス或ハ日本ノ人英國ニ到リ  
或ハ英國人日本ニ来リ其住址ヲ占ルトアルト  
アルヘシ之ヲ律スルニ尤ノ一尤ノ規則アリ宜  
ク之ヲ守ラサルヘカラス

凡ソ人其郷土ヲ去リ他國ニ行キ其國法ニ委服  
スルニ於テハ能ク其將來ノ關聯ヲ變シ且其郷  
土ノ法ト異ナルノ法ニヨリテ管理セララル、ヲ  
得ヘシ

按スルニ已ニ歸化シテ其國ノ籍ニ入レハ其  
國土ノ法ニ從スヘキハ固リナレトモ本文ノ  
如ク其籍ニ入ルノ式ヲ行ハサルモ其住址  
ト為ストキハ其地ノ法ニ從ハサルヲ得サル  
ヲ云フナリ

古件諸例ハ各國互ニ相認容スル所ナリ然ルニ  
日本ニ於テ各國領事等ニ審判ノ權ヲ許スハ則



外邦國推テ日本境土ノ上ニ施行セシムルモノ  
ト云フヘシ夫此ノ如クニシテ其國土ニ住スル  
外國ノ民ヲシテ出テ其法ニ服従セシムルヲ討  
ル豈難シト為サ、ラニヤ  
噫吁大日本ノ國外國ト兄弟ノ交義ヲ結ハ、且  
ク双方同等ノ條約ヲ以テスヘシ然ルニ今ノ如  
ク日本ノ人他國ニ到ルトキハ其地ノ法ニ遵ハ  
サルヲ得ス他國ノ人日本ニ來ルトキハ各其本  
國ノ法ヲ主張セシムルハ國威ヲ落シ汚辱ヲ蒙  
ルノ甚シキモノニシテ彼等カ他國ノ政權ヲ犯

ス凌虚侮慢亦極ルト云フヘシ

### 第八編

#### 浮財資產之事

各國殊法ノ論アルヨリ人ノ浮財資產ニ就キ又  
殊異ノ律アリ夫資產又不可動物トハ土地及其  
上ニ立ツ所ノ家屋樹石及其墾闢修好ノ勞費等  
ヲ合稱ス浮財又可動物トハ商貨證券金錢家什  
等一切人ニ隨テ搬運スヘク且其有主ノ為ニ多  
少ノ利益ヲ為ス者ヲ合稱ス  
日月曼ニ於テハ其始浮財資產ヲ律スルノ法畫

然ト別アリ英米兩國ニ於テハ仍之ヲ應用ス即  
實産ハ其所在ノ地法ニヨリテ之ヲ管理シ浮財  
ハ其有主所住ノ地法ニヨリテ之ヲ管理スヘシ  
トスルナリ  
方今日耳曼ノ法書ヲ著ス者一切此區別ヲ廢シ  
其可不可動タルヲ問ハス凡ソ人ノ財産ハ有主  
本貫ノ地法ニヨリテ之ヲ管理スヘシト云フノ  
説ヲ好スル者アリ而シテ學者徃々此説ニ尤祖ス  
ル者アリト雖モ其交付遺傳ニ至リ前ノ如ク可  
不可動ノ別ヲ立ルヲ好スルノ徒ハ未タ確實ノ

理ヲ論窮スル者ナレ請フ一例ヲ引テ其是非ヲ  
弁セシ假令ハ佛國ニ住スル日本人其死ニ濱ス  
ルヲ慮リ其日本ニ有スル所ノ浮財實産ヲ人ニ  
分典セント欲セシニ凡ソ浮財ハ其有主ノ最後  
ニ居住セル地ノ法ニヨリテ處置スルヲ各國ノ  
允肯スル所トスレハ即佛律ニ從テ其分典遺  
書ヲ立テハ足レリトスト雖モ彼別ヲ立ルノ説  
ニ依レハ其實産ノ分典ニ至テハ日本國ノ式ニ  
依ラサルヘカラストスヘシ此ノ如キハ其紛煩  
ナル實際ニ行フニ便ナラス故ニ曩ノ殊別ヲ去

リ盡ク其人住址ノ地法ニヨリテ之ヲ管理スル  
トキハ其宛簡易ニシテ且精確ナリトス  
蓋シ法ノ有主ニ賜フ處ノ特恩ハ其欲ムル時ニ  
方ツテ隨意ニ財産ヲ他人ニ交付セシムルノ推  
ニアリ而シテ有主ノ賣券或ハ遺書ハ雖其物ヲ分  
テ人ニ典フルノ證ノミ故ニ其券書ヲ立ルノ法  
式ニ至テハ單ニ券書中ニ載スル分典ノ意思ヲ  
保スル者トセハ素大關係ノ事ニ非ルヘシ且其  
住址ノ法ニ從テ之ヲ立シニハ固ヨリ盡ク其知  
ル所ヲ盡スヘキヲ以テ更ニ其餘ヲ問フヲ要セ

サルヘシト雖モ茲ニ浮財實産交付ノ間ニ殊別  
ヲ立ル尚一概ニ廢棄スヘカラサルモノアリ後  
卷継嗣ノ篇ヲ參看スヘシ

第九編

審判綱要之事

凡ソ各般ノ争訟ヲ問治スルニ方ツテ其審廳ノ  
第一急務ハ先何レノ局地法カ其双夥ノ案件ヲ  
管理スヘキヲ檢出スルニアリ之ヲ為サント欲  
セハ先其各人ノ法上地位即其推分ヲ檢出セ  
ニハアテス之ヲ檢出スレハ百凡法上關聯ヨリ

起ルノ紛争迎及レテ解スヘシ何トナレハ人ノ  
推分ハ其本貫ノ法之ヲ限定スルヲ以テ亦終ニ  
此法ニヨリテ審判ヲ求ムヘケレハナリ今假令  
ハ茲ニ嫁婦アリ英國ノ入籍者タリ人ニ約シテ  
其財産ヲ典シトシ後約ニ背キテ之カ為ニ他邦  
ノ訟庭ニ控白セラレシニ其地ノ法能ク其約束  
ヲ為スヲ准スト雖モ其婦ノ推分ニ至テハ他邦  
ノ法之ヲ限定スルヲ得ス唯英國ノ法之ヲ限定  
スヘキカ故ニ其分典ノ當否ヲ判スルノ推英ノ  
訟庭ニ在リ他邦ニ在ラス又紐育ノ嫁婦同情ノ

約束ヲ為シ違約ノ為ニ英國ノ審廳ニ告ラレシ  
ニ其國法人ノ婦妻タル者其有テ權ニスルヲ得  
サルヲ以テ其約束初ノヨリ之ヲ許サスト雖モ  
其婦ノ推分ヲ限定スルハ紐育州法ニアルヲ以  
テ英ノ審司其國法ヲ措テ紐育州法ヲ以テ之ヲ  
區處スヘシト為スルカ如シ  
蓋シ審判ノ原理此ノ如ク簡明ナリト雖モ某國  
國ニ於テ浮財實産ノ別ヲ立ル互ニ殊ナルヲ以  
テ未タ一般ニ之ヲ充用スルヲ得ス故人ノ身  
上案件ヲ決判スルニ方ツテハ右ノ原理ヲ更變

調停シテ三件ノ情形ヲ兼按セサルヲ得ス

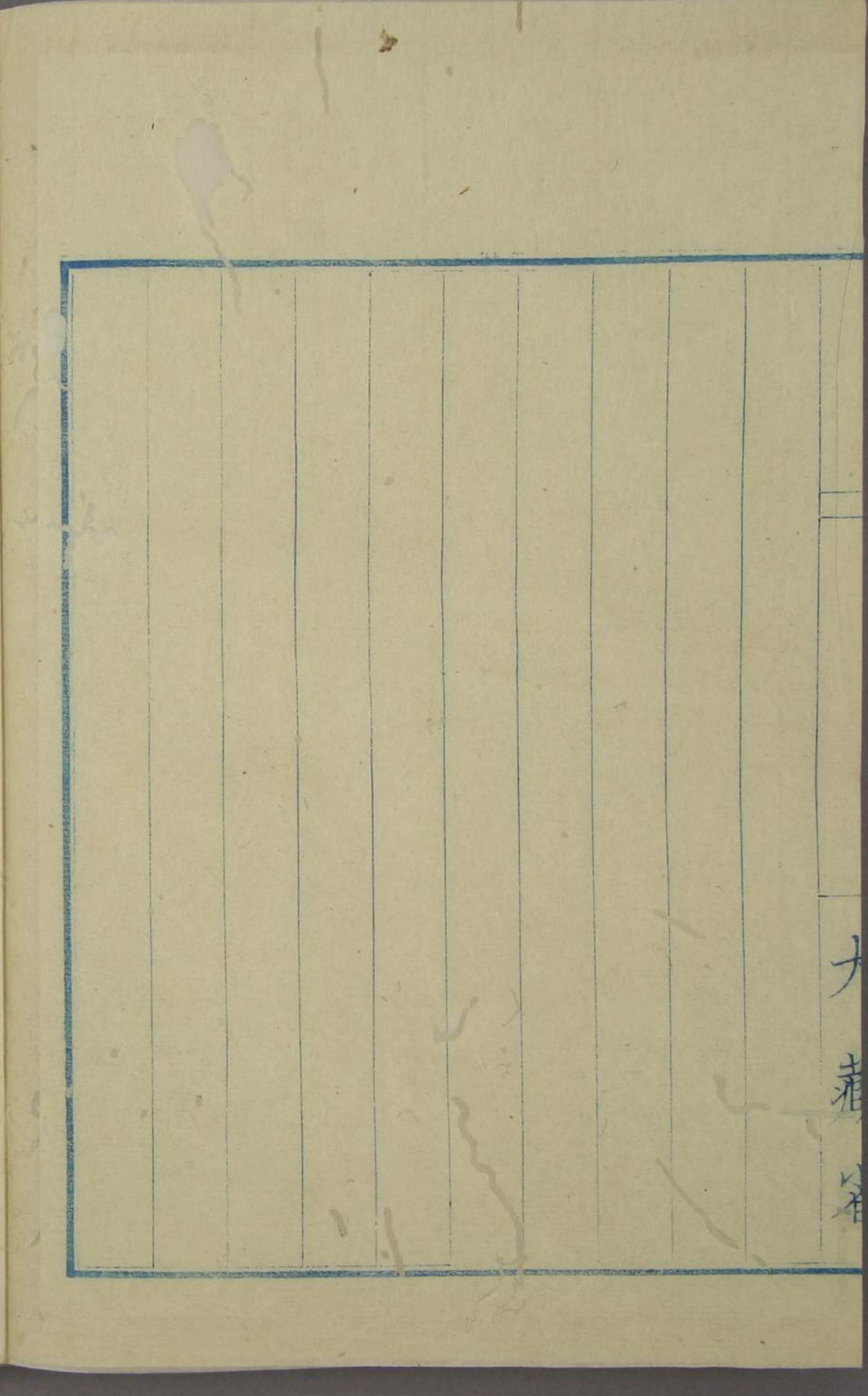
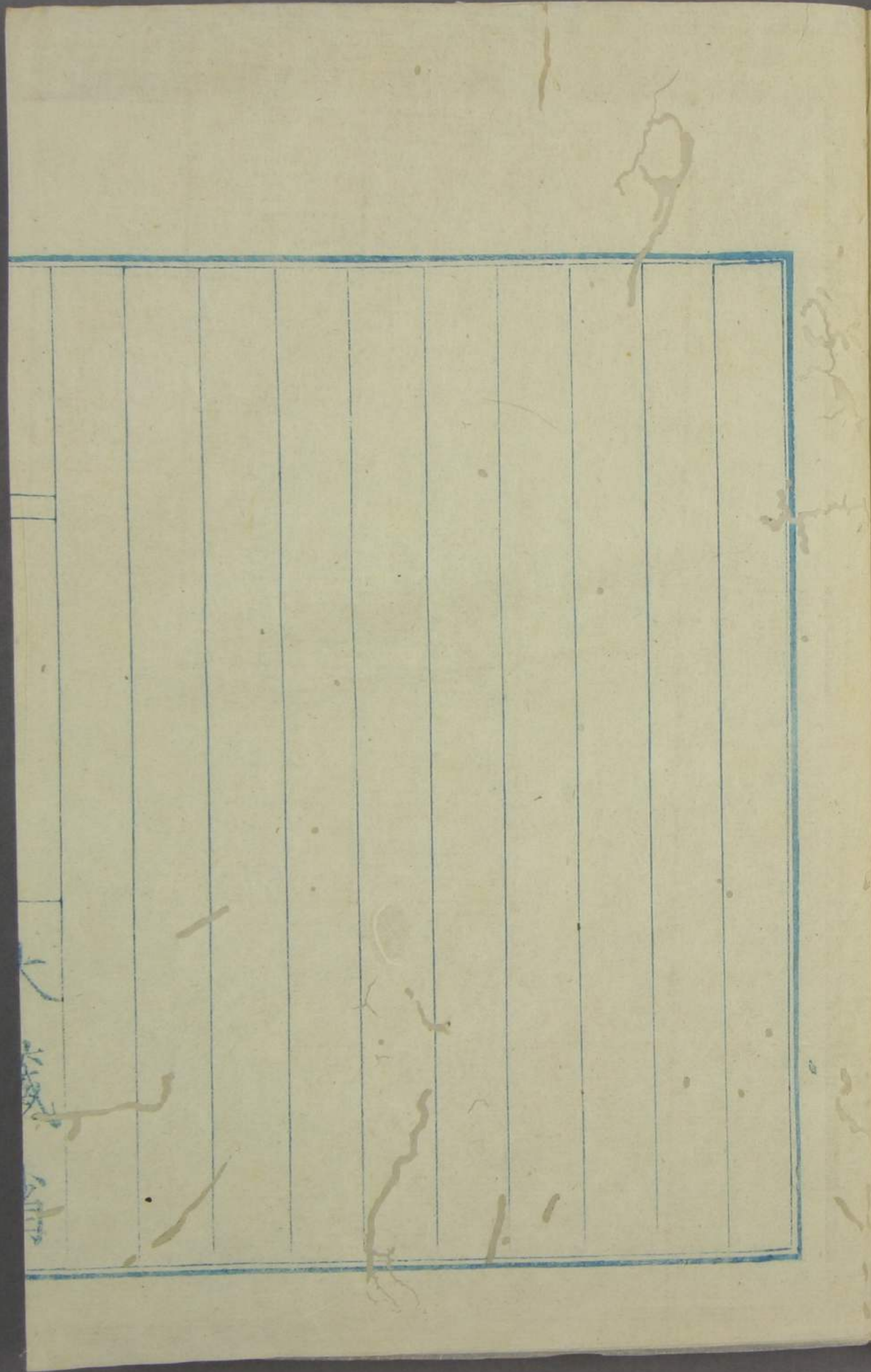
一原被告者本貫ノ地法

一相争ノ物件所在ノ地法

一其案件ヲ問治スル訟庭所在ノ地法

凡ソ各般案件ヲ問治スル先詳ニ右三件ノ情形ヲ尋窮シ各地ノ法ヲ參按シ然後之ヲ處斷セハ冀クハ冤屈偏頗ノ患ヲ免ルニ庶幾カラシ夫各國領事ノ日本ニ留ル者能ク右三件ノ情形ヲ顧思スル者アルカ或ハ能ク之ヲ顧思スル者アルモ能ク之ヲ參考審案シ公平ノ審判ヲ為ス

ニ堪ル者百中一ヲ得ルカ然ルニ此ノ如キ重大ノ事件ヲ徒ニ他國ノ代理者等カ手ニ任スル最モ痛歎ニ耐ヘサルナリ抑唯外國人民ノ間ニ起レル争訟ヲ問治スルカ為ニスラ境土ノ上ニ審廳ヲ開カシムルハ其國則獨立ノ特權ヲ犯ササル、者ト為ス況ニヤ彼是人民ノ訟ヲ治ムルニ其力ニ任スルニ於テヲヤ



九  
卷  
第

